



point 1

ダムの上から見下ろした
多々良木の景色
眼下には四季折々の多々良木の全景が広がります

あさご芸術の森と美術館

point 2



あさご芸術の森は、朝来市の芸術文化ゾーンとして 1994 年から整備されてきました。多々良木の谷全体にアート作品が配置され、芸術と自然が一体となった環境を創出しています。その中心には、淀井敏夫氏の彫刻を常設展示している「あさご芸術の森美術館」があります。屋外のアート作品は、「和谷橋」・「段橋」・「南谷」のアートエリアと「山の神公園」ほか4ヶ所の公園に展示されています。すばらしい多々良木の四季とアート作品が醸し出す異空間を存分にお楽しみください。

奥多々良木発電所

point 3



美術館を覆うように岩石や土砂を積み上げて建設された「ロックフィルダム」の壮麗な景色。山中に6基の発電機を備える国内最大級の揚水発電所。夜間の比較的電力供給に余裕のある時間帯の電気を使って、ふもとの「多々良木ダム」から高低差およそ400mの「黒川ダム」へと水を汲み上げ、電気の消費が大きい昼間にその水を多々良木ダムに落として発電するもの。揚水式としての最大出力193万kwは現在、日本最大を誇ります。



口多々良木について



多々良木ダム建設に伴い“奥多々良木(小倉・倉谷・能見・灰原)”の住家24戸が水没し、現在の位置に集団移転となり“口多々良木”となりました。



ホタルの観察スポット point 4



6月の中頃が見頃。観察スポット周辺は灯りも少なくホタルがよく観察できます。懐中電灯を持参し、足元に気をつけよう。また、ホタルの一生はとても短いので、捕まえずそっと見守ってね！

水遊びスポット point 5



きれいでひんやり冷たい川の水。夏休みシーズンには、川遊びを目的に来られる家族が多く見かけられます。夏休みに水遊びを楽しんでみませんか？

カブトムシの養殖 point 6



中村地区のお家でカブトムシ、クワガタの養殖をおこなわれており、夏には販売もされます。多々良木に生息する昆虫のことや、見つけるポイントを知っていきましょう！

八幡神社 point 7



多々良木の村社で、応永18年(1411)の棟札があります。毎年10月に秋祭りがおこなわれ流鏝馬や子供相撲が奉納されます。また、境内にある杉(神木)や銀杏の木が荘厳な雰囲気を作りだしています。是非お参りされるとともに神社の原風景をお楽しみください。

南谷アートエリア point 8



広大な芝生公園にアート作品が展示してあります。散歩するもよし、芝生に寝転がり緑の空気をいっぱい吸うのもよし、それぞれ、自由な時間をお過ごしください。また、多々良木の静寂(風とせせらぎ音)をお楽しみください。

多々良木フォレストリゾートCoCoDe point 9



兵庫県に初登場となる、特殊な発泡ポリスチレンを使った、白く丸いフォルムが印象的なドームハウスにご家族と一緒に宿泊してみませんか？バーベキューや各種体験もご用意されています。

桜並木と遊歩道 point 10



多々良木川に沿って、遊歩道が整備されています。春の桜や夏のホタル、秋のイチョウに冬景色と季節や時間帯により、様々な発見があります。ぜひ辺りを見渡しながら歩いてみてください。

盆踊り point 11



8月14日の夜におこなわれます。初盆供養の盆踊りといわれ、初盆を迎えられた精霊を供養するため代々引き継がれてきた行事です。地区の交流の場でもあり、子供向けの催しなどがあり楽しい夜が過ごせます。見るより踊りましょう！

不動堂 point 12



修験道(行者さん)の施設で、堂の中に不動明王様が祀られています。年2回おこなわれる行者山の祭礼では、不動護摩がおこなわれ「ノーマクサンマダ...カンマン」と不動明王の呪文を唱え願います。堂の横には、役行者勧請の碑、多々良木出身力士(勇岩彌平)の塚があります。

民俗資料館(旧井上家住宅) point 13



ダム建設に伴い、水没予定地域にあった旧井上邸を昭和49年に現在地に移築し、民俗資料館としました。建築年代は元禄年間(1688年~1703年)と推定されており、明治・大正頃まで建築されていたこの地域の典型的な民家です。また、兵庫県の有形民俗文化財に指定されています。

